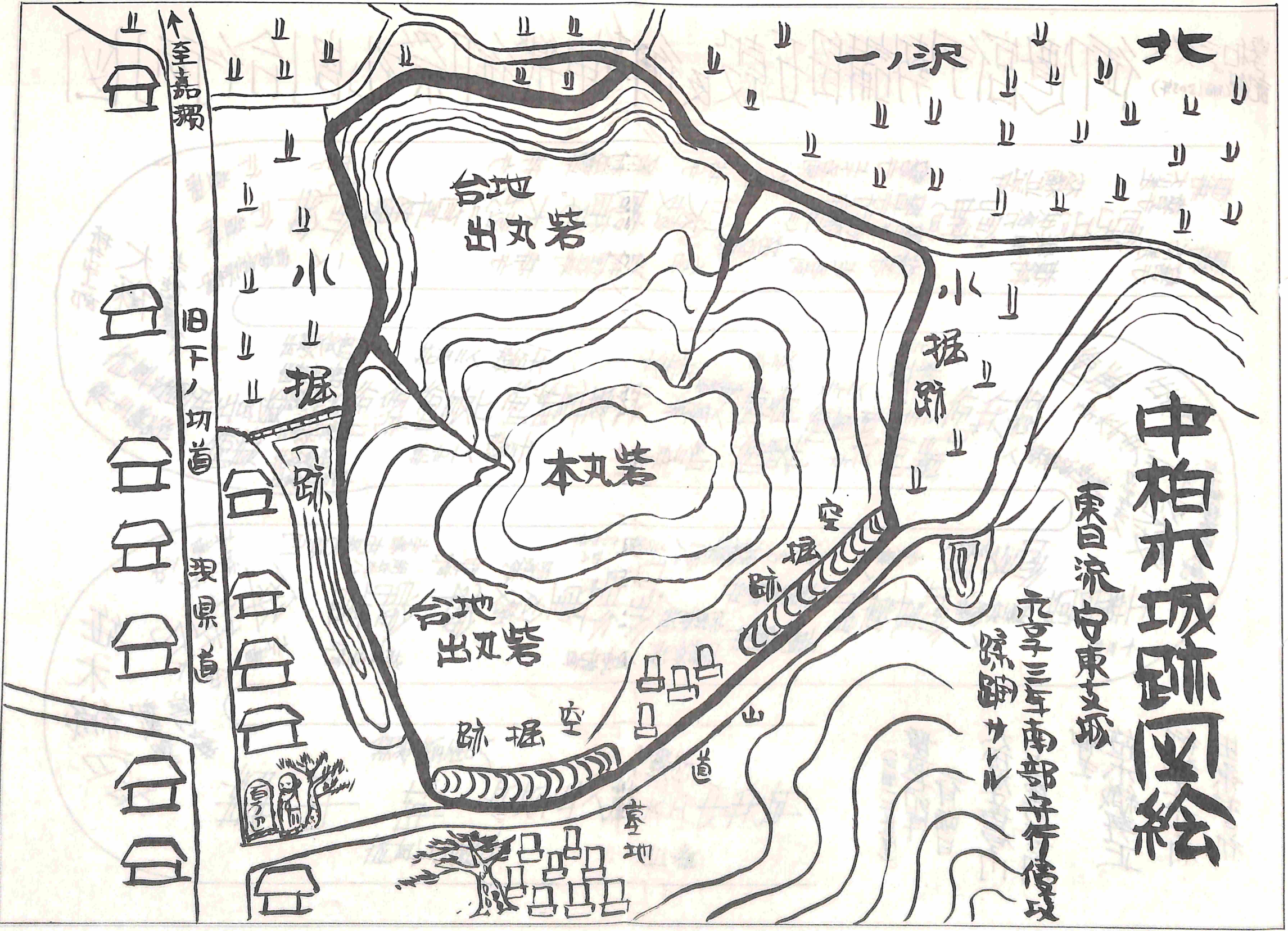


中柏木城跡圖繪

東自流白東支城

永享三年南都平定後
跡圖ナニ



②天明飢饉何をかる 語 セ ン ノ 木



天明三年冷雨降り続き岩木川洪水、六月寒く綿入れを着るほど、七月九・十一日に白霜、八月中旬まで東風吹き続く、八月二十日霜降り出穂おくれ、九月二十四日岩木山赤倉沢雪に覆われ、その後寒さ続き草木悉く枯れ、稲は青立ちのまま枯れ、飯詰・金木・俵元・広須・木造・油川・後泻皆無作となり、天明四年早魃の追い打ちをかけられた。

嘉瀬も餓死者続出地獄図となり、死人村にあふれ、供養するいとまもなく『狐崎』『古町南辻』『八幡宮西側』『妙光庵裏附近』『馬頭観音横』と、村の各所に穴を掘り、死人の上に死人を投げ入れ埋めたと伝えられ、廃村の状態となったという。天明飢饉で多くの死者を出したのは土百姓と貧者で、商家と武士に餓死者が出なかったのは、藩政時代の社会構造にあった。今は切られて根株だけ残るのみの『いごく穴』そばのセンノ木『刺桐』、村の移り変わりとともに育ってきた。天明飢饉の様相をなんと私達に語りかけてくれたのか？。今は偲べるもなく、『いごく穴』前の道路を、大型トラック自家用車が疾走して行く。



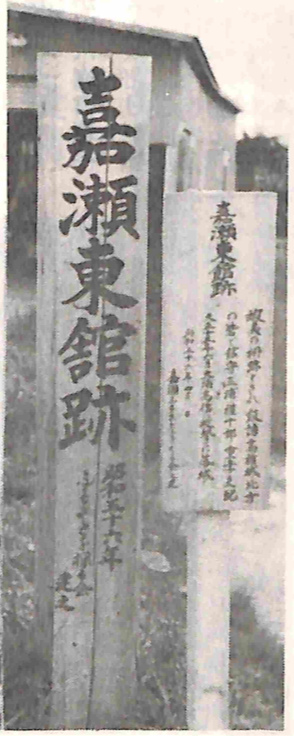
センノ木根株

③嘉瀬小学校創立の地



明治十年五月飯塚宇吉（現飯塚等）宅内に創立、明治十四年山中勇吉宅に移るまで、私達の御先祖様が学んだところ。教師は竹内豊三郎、飯塚藤太郎、石井喜代太郎、蝦名精一で教師は三名から四名、当時学校に入るのはよほどの裕福な家庭のこどもで、小作人のこどもは学校どころでなく、春早くから農作業であった。

④北の守砦 炎上東館



天正十五年五月新城白旗城番阿部孫三郎・金岐館守津島金石工門の急襲を受け高榎城幕下の東館守浜館三郎永光討死。

この地縄文後期の土器片出土、古代住居跡とされ、また蝦夷砦跡とも伝えられ、古くから集落の存在が位置付けられる。



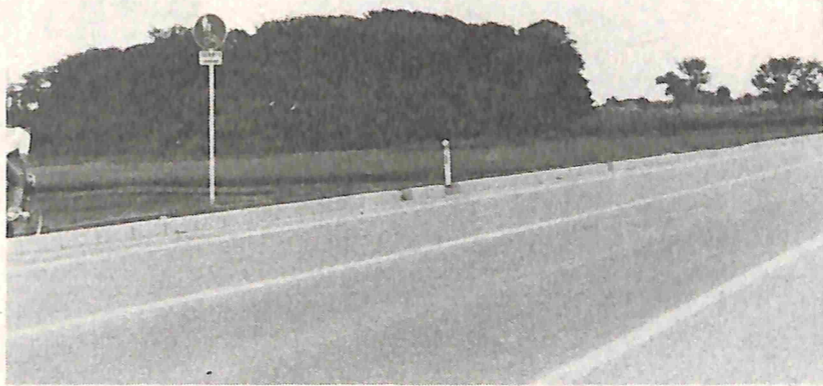
⑤ 金木代官所に
年貢米を運んだ道



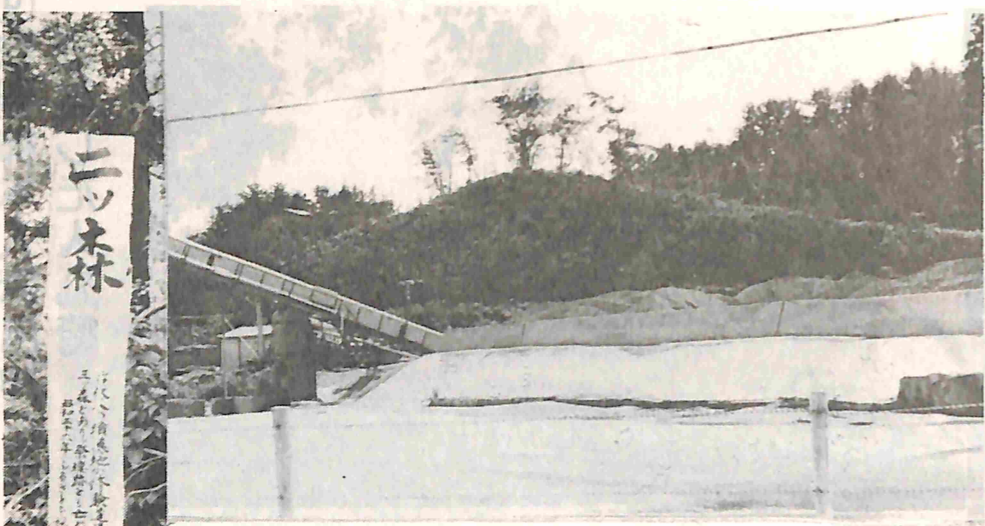
寛文二年（西暦一六六二年）津輕四代信政時代津輕新田開拓も進み、長富・狐崎・古町から金木に出る新道が整備され、嘉瀬の農民は藩倉に納める年貢米を、荷駄や大八車で金木に納めた。藩政時代の本道の往還道であったのが、今は西館跡の畑に通う農道に変わっているが、この道を通る時、昔の足音が聞えてくる。

⑥ 津島金右工門
西館を攻める

天正十五年五月（西暦一五八七年）新城白旗城番阿部孫三郎、金岐館守津島金右工門の急襲を受け、高樫城幕下の西館守、三浦権十郎重孝、砦に放炎討死し果てる。
また平泉藤原時代の蝦夷館跡と伝えられるが、八幡宮境内マイルズ草だけが知る。



⑦ 中山千坊の修験道場
道場か二ツ森



一ツ森、二ツ森とある。一ツ森は既に整地されていない。地形は三角錐形で人工の盛か、自然の森かなぞである。頂上は少し平らの祠跡で、津輕修験僧の祭壇跡か、古代蝦夷酋長を埋葬した古墳跡か？
この立山観音一帯から土器石器が出土するところから、嘉瀬古代人の集落があったと云われる。

⑧ 南部守行
義政に蹂躪
中柏木砦

文治五年（西暦一一八九年）平泉の残党大河兼任反乱東北一円乱れ、このとき十三安東氏中山通り砦に、飯詰砦、中柏木砦、嘉瀬砦を築くと伝承。応永十八年（西暦一四一一年）南部守行陸奥国司となり 津輕安東氏と争い津輕に侵攻。



永享三年（西暦一四一三年）飯詰砦、中柏木砦、嘉瀬砦、中里砦が南部軍に蹂躪され、嘉吉三年五月七日柴崎城（小泊）落ち安東滅亡。砦跡今残るもの無し。

